

## 【テーマ2】 国立大学法人宮城教育大学

## 「未来の教育を支える優れた教員の育成を目指す養成・研修の一体的推進」

— 教員養成大学と地元教員研修機関との協働による新しい人材育成システムの構築を目指して —

## 取組の概要

## ◆ アンケート調査・聞き取り調査

- ・学校現場の教員の姿と研修についての学校長に聞き取りを行う。
- ・若手教員（～10年）に聞き取りを行う。
- ・いじめ防止ボランティア学生を受け入れた学校長に聞き取りを行う。

## ◆ 養成段階及び現職教員への取組(大学)

- ・仙台市いじめ防止プロジェクト(学生ボランティア)
- ・探究の対話ゼミナール(学生自主ゼミ) ・市教委研修への学生参加

## ◆ 養成機関及び学校現場の取組

- ・校内OJTの実践(例:校内留学) ・日常的OJTの実施
- ・打合せの短時間化、校務マネジメントの導入 ・地域との連携協働

## ◆ 調査対象(教員:仙台市内)

- ・初任者 307名
- ・教職5年経験者 249名
- ・教職10年経験者 244名

## ◆ 調査対象(学生:宮教大)

- ・4学年学生 598名

## ◆ 調査対象(校長:仙台市内)

- ・小中学校校長 32校

## 取組のポイント・成果

## ◆ 取組のまとめ(3年間)

## ① 調査・聞き取り

- ・初任者は児童生徒対応、学級経営に困り感有
- ・教員の資質能力の向上には10年経験者までの研修が重要
- ・養成期(学生)に現場経験させることが有効。

## ② 養成段階及び現職教員への取組(大学)

- ・ボランティア活動、自主ゼミ活動等の重要性
- ・特別支援教育、いじめ不登校、道徳教育の充実(「探究の対話(p4c)」の活用)

## ③ 養成機関・学校現場の取組

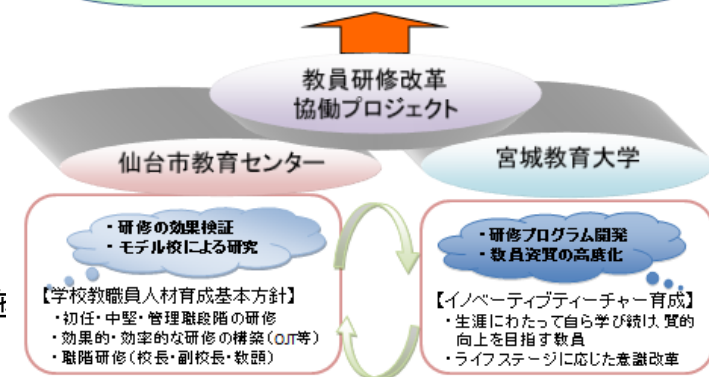
- ・校内OJTとして「校内留学(教師対象)」の実施
- ・校務支援システム、タイムマネジメントの導入

## ◆ 成果

- ・3年間の研究で養成段階及び現職教員における体験的な学びの効果や必要性が明確になった。
- ・体験的な学び(教育現場)を具現化する取組として、ボランティア活動や自主ゼミの活動の意義と効果を見出すことができた(仙台市いじめ防止ボランティア、探究の対話p4cゼミナール 等)
- ・教員養成大学と教育行政が協働することにより、教育現場のニーズに応じた人材育成や実現性の高い研修のあり方を提案できた。(校内留学OJT、センター研修の学生受講、多様な協働 等)
- ・教職大学院と教育センターとの協働で研修講座を開発することができた。(新年度計画位置づけ)

## 教員養成・研修一体的改革推進事業

養成から研修まで一体化した教員育成システムの構築



## 今後の課題

## ◆ 研修の一層の充実と働き方改革への対応

- ・多忙化が進む現状の中で、学び続ける教師を支える、指標と連動した教員研修の在り方
- ・教員養成大学と教育行政とが連携した管理職・リーダーへの研修の充実
- ・教員養成段階の学部・教職大学院授業への反映

※ 上記項目については一例であり、適宜変更してかまわない。

※ 別紙イー②については、文部科学省において公表する場合がある。